

高等部第*学年 自立活動学習指導案

日時:令和4年**月**日(*) **:*~**:*

場所:高等部*年*組教室

指導者:竹林 克磨

1 題材名

「よく見て伝えよう」 -どこで区切るかな? 文章を区切って読んでみよう-

2 題材について

(1) 対象となる生徒の実態

対象生徒は、高等部*年生の男子であり、ADHDを有している。学校では、様々な人との関わりや、多くの経験を通し、社会で生き抜く力を身に付けることを目指している。

認知面では、1000円以内の金銭の計算、小学校中学年程度の漢字を読むことができるが、書字に対しては、正しく漢字を書けているか自信がないことから、簡単な文章を書く際に全て平仮名で書いたり、文章を書く際に「まちがえずに(間違えずに)」を「まちがずに」、「じゅぎょう(授業)」を「じゅうぎょう」といった書き間違いをしたりする。小学校中学年程度の文章を読む力はあるが、文字をとばし読みしたり、文章をたどたどしく読んだりする様子がみられる。中でも「~できている」を「~できた」と、読み方が分かっている漢字であっても、「家庭面(かていめん)」という漢字を「生活面(せいかつめん)」、「~時(とき)」を「~事(こと)」と思い込んで読むなど文章通りに読むことが難しいことが多い。

身体面では、体を動かすことが得意で、球技や器械運動に積極的に取り組むことができる。サッカーを中心に行う総合運動部という部活動に所属している。また、手先も器用であり、直線に定規を当て、カッターを用いて紙を切るといった細かい作業をすることができる。

日常生活においては、学級のルールを守って行動し、生徒会での毎月の挨拶運動など、自分の仕事にも責任をもって取り組むことができるが、障害特性からか給食の箸を忘れたり、携帯電話を持ち帰らなかったりといったことを頻繁に繰り返してしまう。また、自転車で目的地に向かう途中、コンビニエンスストアに立ち寄ることを伝え、集団の先頭を走ったが、目的地に向かうことに意識が集中してしまい、コンビニエンスストアに寄らなかったことがあり、ワーキングメモリや同時処理の力にやや課題がある。

(2) 単元設定の理由

本生徒は、職業コースの高等部*年生であり、一般企業の就労に向けて現場実習等を行っている。しかし、障害特性から、一つのことへ意識が集中すると指示を忘れたり、作業の手順を誤ったりすることがある。また、指示を正確に受け取ったり、文章を適切に読み取ったりすることが難しく、異なる行動を取ってしまうことがある。これらのことから、卒業後、職場での指示を正しく受け取らずに行動してしまったり、説明書や指示書を誤った解釈で読んでしまったりすることが予想される。

本単元では、特別支援学校指導要領自立活動の6区分27項目のうち、特に「4環境の把握」の(2)感覚の認知の特性についての理解と対応に関すること、「3人間関係の形成」の(3)自己の理解と行動の調整について重点をおき、文章を正確に読む方法を身に付け、内容を読み間違えたり、文字をとばし読みしたりすることなく正確に読んで相手に伝える力を育みたい。

(3) 指導目標とリストアップされた項目及び具体的な指導内容

長期目標	指示の一つ一つの内容について、確認できる方法を身に付け、指示通り行動することができる。
短期目標	・自分の苦手なことについて原因を知り、自分に合った対応を考え、実践することができる。 【健(4)心(3)人(1)(2)(3)環(2)コ(2)(3)(4)(5)】 ・タブレット端末のアラーム音に気づき、端末を開いて準備物を確認し、教師に確認終了の報告

	をすることができる。【健(1)心(2)(3)人(3)環(3)】 ・教師が伝えた単語や二語文程度の言葉を、50文字程度の言葉から抜き出し、音読することができる。【環(2)(4)】
--	--

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
項目リストアップ	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整	(2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服する意欲	(1) 他者との関わり基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握	(3) 日常生活に必要な基本動作	(2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション

指導内容	生活上の様々な場面を想定し、その場面での相手の言葉や状況に応じて、具体的にどのような行動をとったらよいのかを考えたり、実際に練習したりする。	タブレット端末やスマートフォンなどのICT機器ツールの活用手段を知ること、学校や家庭でそれを用いながら、自分に入ってくる指示や準備物などの情報を整理し、忘れずに処理できるようにする。	文字を一文字ずつよく見たり、単語や文節を一つのまとまりとして捉えたりして、文章を正しく音読できるようにする。
------	---	--	---

(4) 指導にあたって

指導にあたっては、集中して取り組んでほしいという思いから、複数の課題をモジュール化して進めるようにする。その一つ目として、視覚機能の向上を促すビジョントレーニングをベースに、数字や生徒が興味関心のあるサッカーなどの言葉を順番に目や指で追う課題を授業の導入部分で繰り返し行うことで、見る力を育む。また、探す数字を声に出したり、取り出した言葉のまとまりを音読したりして、抜けている文字がないか確認できるようにする。ビジョントレーニング課題については、いつでもどこでもトレーニングができるようにするために、個人のタブレット端末を用いて行うようにする。二つ目に、50文字程度の文章の内容を正しく読み取ることができるようにするために、文章を区切る課題を設定する。前期に、本生徒が全校集会の司会をした際には、単語のまとまりの途中で区切って読むことが多く、文章を読む際にたどたどしく読んでいたが、文節で区切って読む練習をしたところ、「読みやすい」、「分かりやすい」という発言があったことから、文節を捉える学習は効果的であると考え。文章で取り上げる具体的な内容は、これから社会生活の中で起こりえる内容や、友達との対話的学びを取り上げ、「自分も読みやすい」、「相手に正しく内容が伝わった」という経験を積み重ねていくことができるようにする。そして三つ目に地図ゲームを行い、文章から読み取った内容を可視化できるようにする。提示された文章を文節に区切ってから、内容を相手に分かりやすく伝えられるようにしたり、相手から伝えられたとおりに地図上の目的地を探したりする活動を行う。相手の反応を見聞きしながら伝えたり、伝えたことが、正しく伝わったりすることを、友達とのやり取りを通して感じられるようにしたい。

3 指導計画

次	時間	ねらい	指導内容
一	4	- 文章を区切るポイントを理解することができる。 - 単語や文節を一つのまとまりとして捉えることができる。	- 文節の種類について確認し、文節の5つの働きや文節の分け方を知る。 - 無意味音の文字を見て、語のまとまりを見付ける。
二	4 本時は 2/4	- 対象を順番に目で追うことができる。 50文字程度の文章を、文節に区切り、内容を読み取って、分かりやすく相手に伝えることができる。	- 数字や文字を瞬時に認識する練習を行う。 - 興味関心がある話題や身近な内容の文章を文節ごとに区切り、文章の通りに読む。 4～5文程度の指示書を読み、その通りに行動するロールプレイを行う。

4 本時の指導

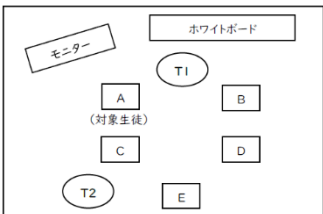
(1)目標

- ・文章を文節で区切り、内容を読み取り、相手に伝えることができる。

(2)教材・教具

タブレット端末、ビジョントレーニング課題、放送原稿、地図説明文、タブレット端末用のペン、モニター、ワークシート、評価シート

(3)展開

形態指導	主な学習活動・内容	教師の手立て
全 (1)	1 始めの挨拶 ・号令をかけたり、号令を聞いたりして礼をする。 	・「前に立っている人の顔を見て挨拶しましょう」と言葉かけをし、教員に視線を向けて挨拶できるように促す。
全 (4)	2 学習の流れの確認 (1) 学習内容を見聞きする。 (2) 目標を確認する。 (3) 教師の説明を聞く。 (目標) 文章を区切り、内容を分かりやすく相手に伝えよう。 (学習内容) ①ビジョントレーニング(2問) ②新人研修「放送係」 ③地図ゲーム ④振り返り	・活動の見通しをもつことができるように、ホワイトボードに学習内容を提示し、順に読み上げる。 ・目標を書き入れられるワークシートを用い、空欄に書き込めるようにすることで、目標への意識付けを図る。 ・「今から確認します」や「話を聞くときは、どうすればいいですか？」などと言葉かけをし、話を聞く態度が整えることができるようにする。
個 (5)	3 ビジョントレーニング (1) 1～20の数字がランダムに配置されたスライドから、探す数字を声に出して順に追う。(1問を30秒で行う)  (2) 文字がランダムに配置されたスライドから、スポーツに関わる単語を探す課題に取り組む。 ・取り出した文字のまとまりを音読する。	・課題をタブレット端末の Keynote へ事前に配付しておき速やかにデータを開いて学習を始めることができるようにする。 ・声に出しながら探すようにすることで、自分の声を聞いて探す数字を確認できるようにする。 ・(1)、(2)ともに、それぞれ30秒以内で達成できる課題を設定したり、ワークシートのメモ欄を活用したりして、生徒の成果を確認できるようにする。
	(2) 文字がランダムに配置されたスライドから、スポーツに関わる単語を探す課題に取り組む。 ・興味関心が強いサッカーなどのスポーツ用語を問題にして、意欲的に集中して取り組むことができるようにする。 ・取り出した文字を音読することで、抜けた文字がないかどうか確認できるようにする。	

	(課題のイメージ) グ (15) 4 新人研修「放送係」 (1) スライドで「新人研修 放送係」のルールを確認する。 (新人研修「放送係」のルール) ① Keynote を開き、1 回目は文章を区切らずに、2 回目は、区切って文章を読む。 ② 読みやすいように文章を斜線で区切る。 ③ 区切った文章を読む。 ④ 1 回目に比べ、読み方がどう変わったかを録画を見て、友達同士で確認する。 (放送原稿) 訓練訓練です。第2工場の3階食堂にて火災が発生しました。各自ヘルメットを着用して避難経路を確認して駐車場へ避難をしてください。 (2) 文章を区切るポイントについて確認する。 (ポイント) ・「ネ」、「ヨ」で区切る。 ・意味をこわさずに区切る。 (3) ポイントについてワークシートに記入をしながら確認する。 (4) 2グループに分かれる。 ・ペアになり、原稿を読んだり、メモを取ったりする。	・導入の学習でビジョントレーニングに取り組むことで、②、③の学習において、生徒の文字を追う力を高めることができるようにする。 ・新人研修「放送係」の場面や役割を設定することで、場面を楽しみながら、放送原稿内容を正確に読むことや内容を分かりやすく伝えることへの意識を高めることができるようにする。 ・放送原稿を1回目は区切らずに、2回目は区切って読むようにすることで、読みやすさや内容の読み取りやすさの違いに気付くことができるようにする。 ・放送原稿に用いる文章は、区切ることや内容を読み取ることができるように、50 文字程度の文字量にする。 ・T1、T2は、生徒が文章を読む様子を動画で撮影し、文章を読む様子にどのような変化があったかを後で確認できるようにする。 ・1回目に読んだ様子と比べ、文節で区切ることで読み方にどのような変化があったかについて自身で動画を見て確認したり、生徒同士で確認し合ったりできるようにする。 ・文章を区切るポイントについてのスライドを一部空白にしてモニターにミラーリングで映すことで、生徒がポイント内容を思い出しながら復習できるようにする。 ・「〇〇〇ネ～」、「〇〇ヨ～」・・・などと、「ネ」や「ヨ」を入れて確認しながら読むようにすることで、文章を区切りやすくする。 ・前時の復習を、簡単な問題で確認できるようにする。 ・区切る文節のまとまりが分からないときには、「この文章で、主語・述語・修飾語などに当てはまりそうな部分はどこでしょうか。」と問いかけて気付くことができるようにする。 文章を、「ネ」や「ヨ」を入れながら区切り、文章の内容を友達に分かりやすく伝えている。 〈2(2)(3)、4(2)(3)〉
グ (15)	4 地図ゲーム (1) 学習内容②と同じグループに分かれる。 (2) スライドで「地図ゲーム」のルールを聞く。 (3) 地図ゲームに取り組む。	・T1 は、スライドに例文を提示しながら、地図ゲームの内容について説明する。 ・分かりやすく相手に進み方を伝えるために、文章をどこで区切るのかを考えられるようにしたり、伝えるときに、文章に書いてある言葉をとばさずに読み上げたりしながら、地図上の目的地までゴールできるようにする。

	(地図ゲームのルール) ① 文章を指定された時間で区切る。 ② 一人が文章を読み上げ、もう一人が地図をたどる。 ③ 一度で正解できなかった場合、①で区切った文章を読んでもう一度問題をやり直す。	・T1、T2は、一度で正しい目的地にたどり着くことができなかった場合、文節で区切ってから文章を読むように伝える。 ・両面に同じ内容の文章が書いたプリントをあらかじめ用意しておく。 ・T1は、東西南北の方位についてホワイトボードに記入して確認する。 ・地図の説明文を読む際は、文を読むことに集中できるように、相手の地図が見えないようにする。 ・地図をたどる生徒が聞き取れなかった際には、「もう一度お願いします」などと伝えるようにし、地図の説明を再度確認できるようにする。
	(例題) 学校を背にしてまっすぐ北へ向かいます。3つ目の交差点を、西へ曲がって花屋の向かいの家がA先生の家です。A先生の家は地図のどこでしょうか。	
	(イメージ図) 	文章を区切り、読みとばさずに、順に友達に内容を伝えている。 〈2(2)(3)、4(2)(3)〉
全 (9)	5 振り返り ・自身の活動を振り返り、ワークシートで自己評価をして記入する。	・記入の仕方を説明するとともに、ペア学習の様子や結果を一緒に振り返りながら、評価シートに記入ができるようにする。 ・生徒の頑張った点を具体的に称賛し、全員で拍手をして達成感を味わうことができるようにする。
全 (1)	6 終わりの挨拶 ・号令をかけたり、号令を聞いたりして礼をする。	・「前に立っている人の顔を見て挨拶しましょう」と言葉かけをし、号令の合図が終わるまでが授業であることを意識できるようにする。